第73回　日本東洋医学会学術総会　2023年6月17日

【健康保険担当委員会・政策提言委員会合同シンポジウム】
健康保険における漢方診療を守るために
演題登録番号　JO230100

漢方薬の健康保険適用の必要性
～漢方薬服用経験がある
全国20代～70代女性への意識調査から～

NPO法人
みんなの漢方®
理事長
増田美加

一般社団法人日本東洋医学会
利益相反（COI）開示

発表者名：特定非営利活動法人みんなの漢方理事長　増田美加

演題発表内容に関連し、発表者が所属する「特定非営利活動法人みんなの漢方」が開示すべき利益相反（COI）関係にある企業として

①報酬（ホームページ広告料）：株式会社ツムラ
②株保有・利益：
③特許使用料：
④講演料等：
⑤原稿料：
⑥受託研究・共同研究費：
⑦奨学寄附金：
⑧寄附講座所属：
⑨旅費、贈答品などの受領：
⑩協賛金：クラシエ薬品株式会社、株式会社MIMC

NPO法人みんなの漢方とは？

NPO法人
みんなの漢方®

当会は2013年に一般市民の会として設立し、不調を抱えている人、また、QOLをあげて健康寿命を延ばしたいと考えている人たちに向けて、当事者視点に立ち、漢方医療の正確な情報の普及や関連する病気・症状などの理解に対する啓発活動を行うことを目的としています。

今回、一般市民が漢方薬の保険制度を認知し、保険制度の継続をどの程度求めているのかの実態を知るために、意識調査を行いました。その結果を報告いたします。

【目的】

・漢方薬の保険適応制度の認知度、漢方薬の入手方法、今後の保険制度継続の要望の有無を調査。

・不調を意識しやすい「成人女性」を対象に調査を行う。

【対象】

・全国47都道府県の20代～70代の女性（地域、年齢は均等割り）、合計600名。

・いずれもなんらかの不調経験のある女性で、実際に漢方薬服用経験が一度でもある人を対象にした。

【方法】

調査方法：インターネットリサーチによるアンケート調査。調査会社「ネオマーケティング」
調査期間：2023年2月3日～2月6日
回答者：全国（全都道府県）20代～70代の女性600名
回答者の属性：都道府県均等割り、各年代同数（各年代16.7%ずつ）

スクリーニング項目：
１　下記の不調経験のある人（どれかひとつでも可、複数でも可）
生理痛、PMS（月経前症候群）、疲れ、便秘、うつ、不眠、冷え、むくみ、不妊、更年期症状、腰痛、関節痛、頭痛、肩こり、頻尿・尿もれ、肌荒れ、吹き出物

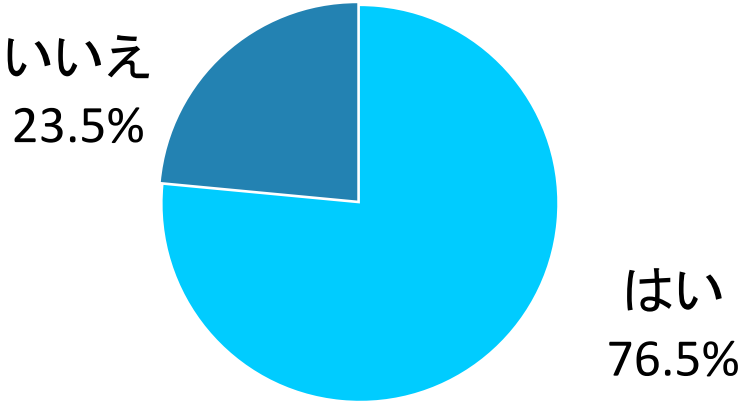
２　上記、不調経験がある人で、かつ漢方薬の服用経験がある人

【結果　1】
漢方薬の保険適用の認知度

・漢方薬が医師処方により健康保険が適用されることを知っていた人は、76.5%。地域や年齢による認識の差はほとんどなかった。

Q　あなたは、漢方薬は医師が処方すると健康保険が適用されるのをご存じでしたか。
あてはまるものを1つ教えてください。[はい・いいえ]
（n＝600）

はい	76．5%
いいえ	23．5%

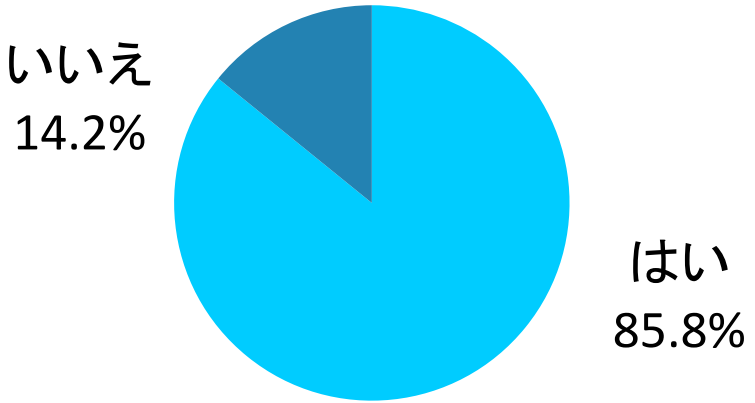


【結果　2】
保険適用の漢方薬の処方経験

・保険適用を知っていた人の中で、実際に漢方薬を健康保険で処方された経験があるかどうかを聞くと、85.8%があると答えた。

Q　あなたは、漢方薬を健康保険で
医師に処方されたことがありますか。
あてはまるものを1つ教えてください。
［はい・いいえ］
（n＝459）

はい	85．8%
いいえ	14．2%

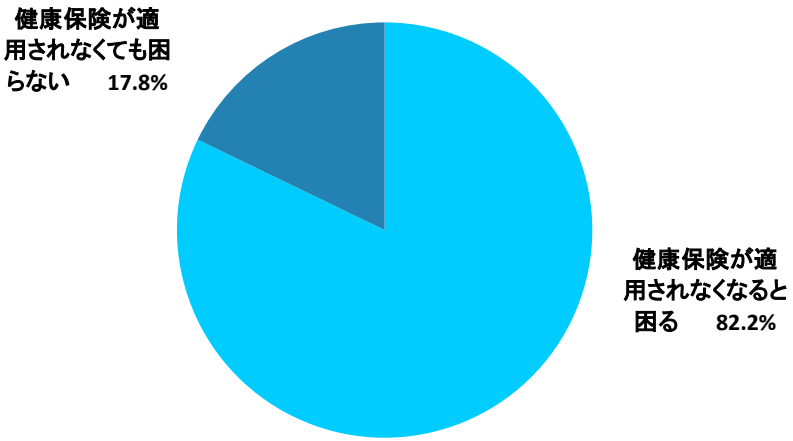


【結果　3】
保険適用の漢方薬への期待度

・漢方薬を医師が処方しても健康保険が適用されなくなると困るかを尋ねたところ、82.2%が困ると答えた。

Q　あなたは、漢方薬を医師が処方しても健康保険が適用されなくなると困りますか。あてはまるものを1つ教えてください。[適用されなくなると困る・適用されなくても困らない]　(n=600)

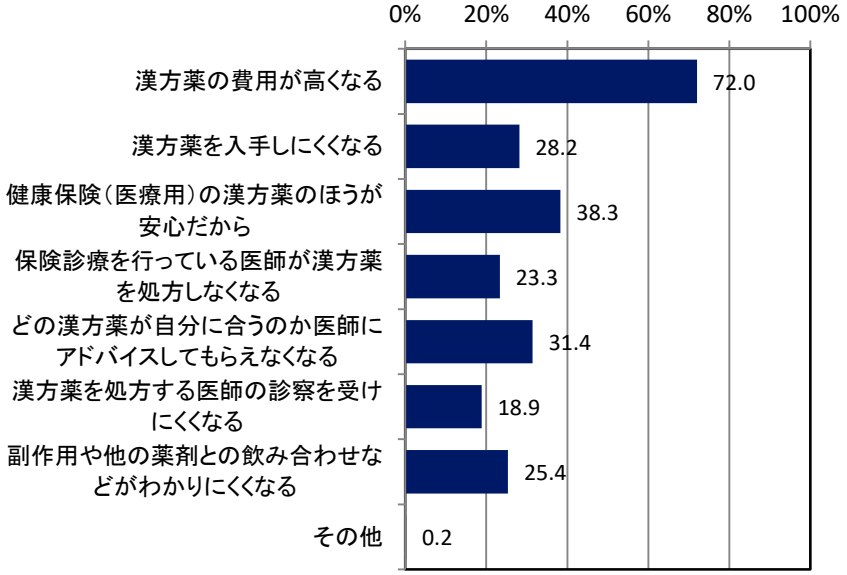
困る	82．2%
困らない	17．8%



【結果　4】
漢方薬に保険適用が必要な理由

・健康保険が適用されなくなると困る理由は、
「漢方薬の費用が高くなる」72.0%
「健康保険の漢方薬のほうが安心だから」38.3%
「どの漢方薬が自分に合うのか医師にアドバイスしてもらえなくなる」31.4%
が上位3つの理由であった。

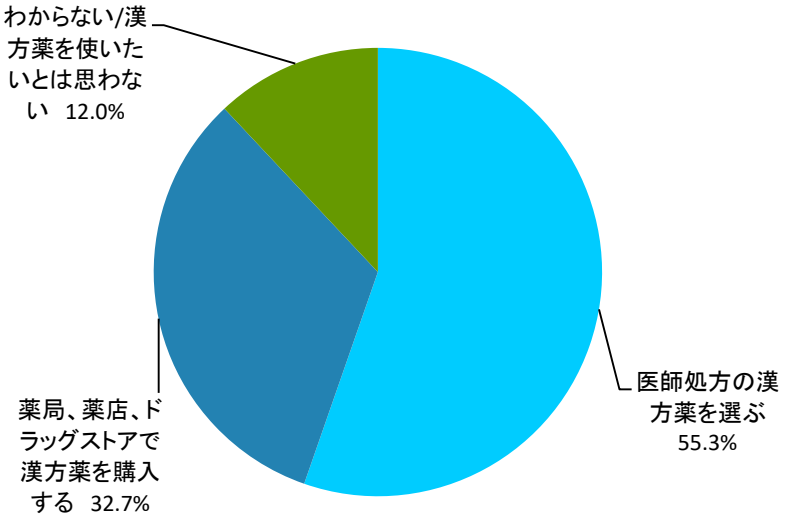
Q　漢方薬が医師による処方でも
健康保険が適用されなくなると
困る理由をあてはまるものをすべて教えてください。
（n＝493）



【結果　5】
漢方薬の入手法

・今後、漢方薬を使いたいと思ったとき、
どのように入手するかを尋ねたところ、
「医師処方の漢方薬を選ぶ人」55.3%
「薬局、薬店、ドラッグストア（以下、薬局）
で漢方薬を選ぶ人」32.7%

Qあなたは、漢方薬を使いたいと思ったとき、
どのようにして入手しますか。
主な入手方法にあてはまるものを1つ教えてください。（n＝600）

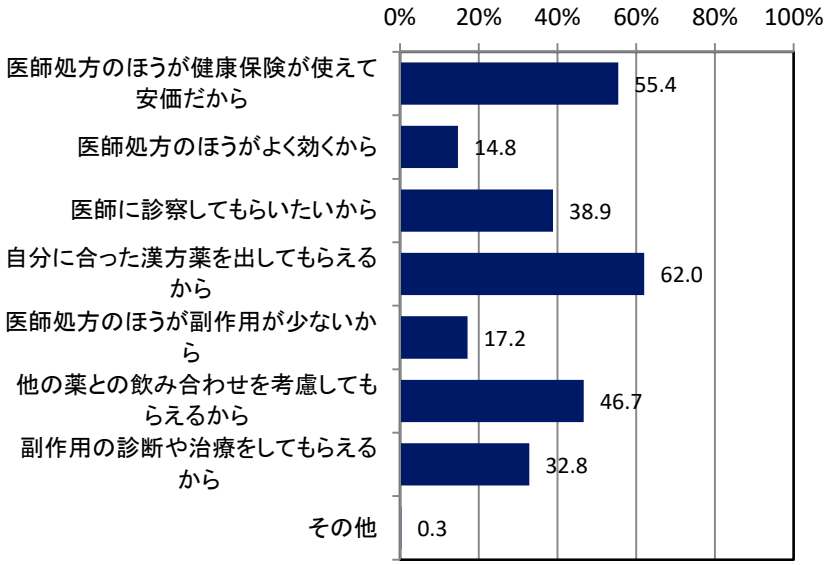


【結果　6】
漢方薬の入手法　＜医師処方を選ぶ理由＞

・今後、漢方薬を使いたいときに
「医師処方の漢方薬を選ぶ人」（55.3%）に理由を尋ねると

「自分に合った漢方薬を出してもらえるから」62.0%
「医師処方は健康保険が使えて安価だから」55.4%
「ほかの薬との飲み合わせを考慮してもらえるから」46.7%
「医師に診察してもらいたいから」38.9%が
上位4つの理由だった。

Q　漢方薬の入手方法で医師処方を選んだ理由について、
あてはまるものをすべて教えてください。（n＝332）

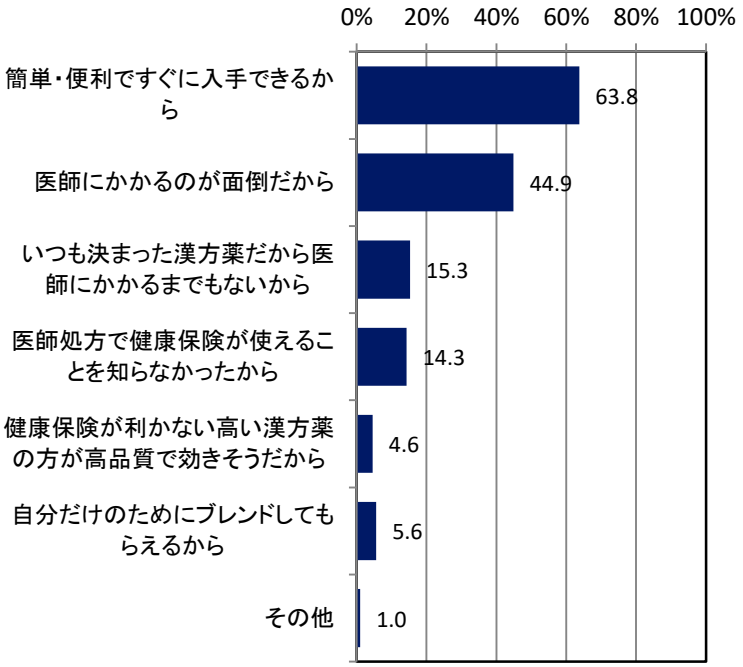


【結果　7】
漢方薬の入手法　＜薬局（薬店・ドラッグストア）を選ぶ理由＞

・今後、漢方薬を使いたいと思ったとき、
「薬局での漢方薬を選ぶ」と答えた人（３２．７％）の理由は、

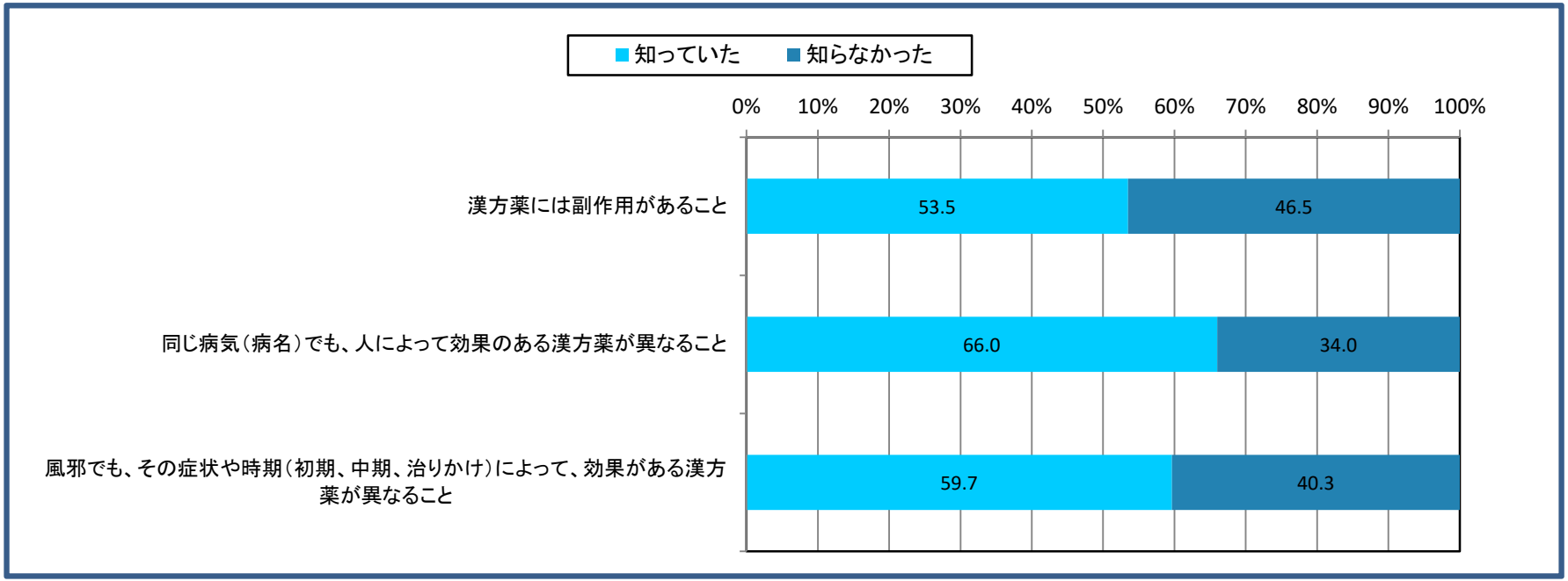
「簡単・便利ですぐに入手できるから」63.8％
「医師にかかるのが面倒だから」44.9％
が多い理由だった。

Ｑ　漢方薬の入手方法で薬局での漢方薬を選んだ理由について、
あてはまるものをすべて教えてください。（n＝196）



【結果　8】
漢方薬への理解度

・漢方薬についての“知識”を以下の3問で聞いたところ



【結果　9】
漢方薬への理解度　1

【クロス解析】 保険適用の認識×「漢方薬の副作用」の認識

「保険適用の認識あり」グループは、
「保険適用の認識なし」グループと比べて、
「漢方薬に副作用がある」
ことを知っていた人が多かった。

「漢方薬に副作用がある」と知っている60．8%
（n＝600）

		副作用あり 知っている	副作用あり 知らない
Q1保険適用認識あり　計	459人	279	180
	100%	60.8	39.2
Q1保険適用認識なし	141人	42	99
	100%	29.8	70.2

【結果　10】
漢方薬への理解度　２

【クロス解析】 保険適用の認識×「同病異治」の認識

「保険適用の認識有」のグループは、
「保険適用の認識無」グループと比べて、
「同じ病名でも人によって漢方薬が異なることを知っている」
人が多かった。

「同じ病名でも人によって漢方薬が異なることを知っている」
人は75．6％

（n＝600）

		同病異治 知っている	同病異治 知らない
Q1　保険適用認識あり　計	459人	347	112
	100%	75.6	24.4
Q1　保険適用認識なし	141人	49	92
	100%	34.8	65.2

【結果　11】
漢方薬への理解度　３

【クロス解析】 保険適用の認識×「風邪でもその症状や時期（初期、中期、治りかけ）によって、効果がある漢方薬が異なること」の認識

「保険適用の認識有」のグループは、
「保険適用の認識無」グループと比べて、
「漢方薬の使い分け」を知っていた人が多かった。

「漢方薬の使い分け」を知っていた人は66．7％

（n＝600）

		使い分け 知っている	使い分け 知らない
Q1　保険適用認識あり　計	459人	306	153
	100%	66.7	33.3
Q1　保険適用認識なし	141人	52	89
	100%	36.9	63.1

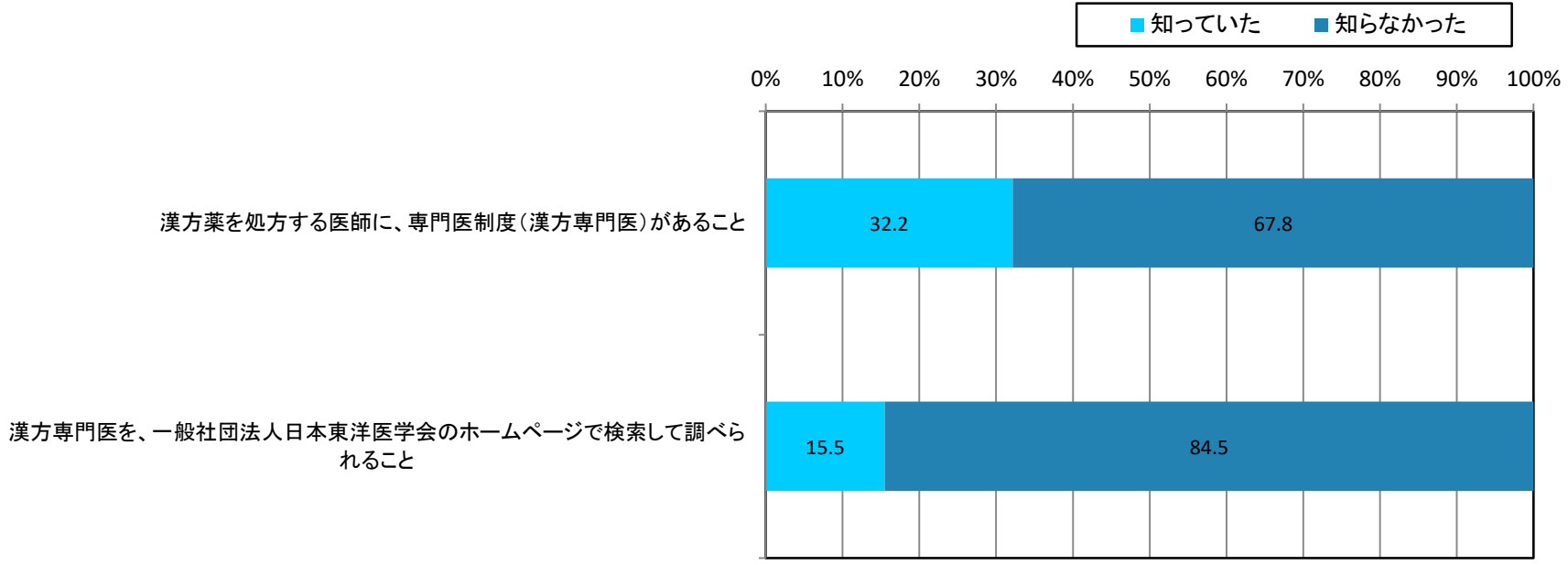
【結果　9～11】
漢方薬への理解度　クロス解析のまとめ

【クロス解析】保険適用の認識×漢方薬への理解

	保険適用の認識有	／	保険適用の認識無
「漢方薬に副作用があることを知っている人」	60.8%	／	29.8%
「同じ病名でも人によって漢方薬が異なることを知っている」	75.6%	／	34.8%
「風邪でも症状や時期によって効果のある漢方薬が異なることを知っている」	66.7%	／	36.9%

【結果　12】
漢方専門医の認知度

漢方薬を処方する医師について、以下のことをご存じでしょうか。
あてはまるものを教えてください。



【まとめ】

・健康保険の継続を希望する人が82.2%と多い。
・健康保険継続の理由は「コスト面」が1位ではあるが、
「医師処方の健康保険適用薬への安心感や安全性」、
「自分に合う薬剤や飲み合わせを考慮して処方してもらえる期待」、
「医師に診察してもらいたい」という希望などが見える。
・医師処方経験がある人のほうが、漢方薬に対する理解の高さが伺える。

・以上のことからも、漢方薬が未病対策、健康増進、早期治療に役立つ薬剤であることから、医師を受診して処方してもらうことによりヘルスリテラシーを高める機会が増えることに繋がると考える。

【考察】

医師による漢方薬処方は、私たち国民のヘルスリテラシーを上げるきっかけになる。

人生100年時代、高齢化社会を迎える日本で、国民のヘルスリテラシーを向上させることは重要。

女性活躍、女性の健康推進が叫ばれ、フェムテックがブームになる中、女性の不調対策が得意分野である漢方薬、漢方医療は、さらに大きな役割を担う存在になる。

正しい健康情報、安心安全な漢方医療の啓発のためにも、健康保険による漢方薬処方の継続は欠かせない。

【謝辞】

座長の金倉洋一　先生（かなくらレディスクリニック院長）
玉嶋貞宏　先生（玉嶋血液内科・漢方診療所院長）に
貴重な機会をいただきましたこと心より御礼申し上げます。

- 渡邉賀子　先生（帯山中央病院理事長）に調査研究のご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。

・高木浩登　氏（特定非営利活動法人みんなの漢方®事務局）に感謝いたします。